川の中へおつこちたお猫さん

村山籌子

青空文庫

あるところにお猫さんがありました。どういふわけだか、生れつきお家にゐるのがきらひで、いつでもぶらりぶらりと、あるきまはつてゐました。

ある日、お母さんがおつしやいました。

「お猫さんや、今日は少し寒いから、お家にじつとしていらつしやい。」

けれども、お猫さんは、お母さんの姿が見えなくなると、すぐさまお家をとび出して、三町ほどむかふの川のふちのあひるさんのところへ行きました。

あひるさんのお母さんはおつしやいました。

「お猫さん、折角ですが、あひるさんはまだ学校から帰つて来ません。」

お猫さんはがつかりしましたが、お家に帰るよりこゝで待つてゐた方がましだと思つて、

「をばさん、外で待つてゐます。」と言ひました。

一時間待ちました。

あひるさんは帰つて来ません。寒い風が吹いて来て、お猫さんの帽子を川の中へふきとばしました。お猫さんは、一丁四方にもひゞきわたる程大きく

「ハクシヨン‼」とくしやみをしました。

あひるさんのお母さんはおつしやいました。

「お猫さん、今日は寒いから、もうお家へお帰りなさい。」

それでもお猫さんは「僕、ちつとも寒くないや。」といつて、動きません。

お猫さんはそこで、又一時間待ちました。けれどもあひるさんは帰つて来ません。

又、寒い風が吹いて来て、お猫さんの上衣を、川の中へふきとばしました。お猫さんは二町四方位にひゞきわたる程、大きく「ハクシヨン、ハクシヨン。」と、くしやみをしました。

あひるさんのお母さんはおつしやいました。

「さあ、もう、お家へお帰りなさい。風邪をひきますから。」

お猫さんはシヤツ一枚でガタガタふるえながら、

「大丈夫です。おばさん。」といつて、動きません。そしてもう一時間待ちました。

夕方になつて、嵐のやうに大きな風が吹いて来ました。そしてお猫さんはコロコロと川の中へおつこちてしまひました。

お猫さんは幸なことに、水泳の選手でしたから、ズブぬれになりましたが、すぐに川からはひ上つて、三丁四方にもひゞきわたる程大きく、「ハクシヨン、ハクシヨン、ハクシヨン。」とくしやみをしました。そのくしやみの音は、お猫さんのお家までひゞきましたので、お猫さんのお母さんは大へんびつくりして、かけて来ました。そして、ズブぬれのお猫さんをお家へつれて帰りました。

お家のベツトの中へはいつて、お猫さんは、

「川の水の中より、おふとんの中がずつとあつたかくていいや。」と思ひましたが、それは後

のまつりで、その晩から熱が出て、一週間程はうんうんうなりましたさうです。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第二六巻」ほるぷ出版
　1978（昭和53）年11月30日初刷発行
底本の親本：「子供之友」婦人之友社
　1933（昭和8）年11月
初出：「子供之友」婦人之友社
　1933（昭和8）年11月
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2011年5月3日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

川の中へおつこちたお猫さん

村山籌子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/